組合名	件數	參加人員	平均日數	結果 値上	結果 考慮	結果 敗北
大阪金屬勞働組合	〇二八 △二二	一、一三五 一、〇六一	二八七 二三二	二七 二〇	一 一	— —
大阪化學一般産業勞働組合	〇四 △二	一二八 一八	一五 二八	四 二	— —	— —
大阪運輸交通勞働組合	〇四 △四	一、一五二 一、一五二	七二 七二	四 四	— —	— —
大阪履物勞働組合	〇八 △一	七八一 四五	八〇 二	三 一	— —	— —
泉州勞働組合	〇三 △三	一三〇 一三〇	八 八	三 三	— —	— —
日本紡織大阪支部聯合會	〇一 △二	四四二	四六	二	— —	— —
合計	〇四七 △三三	三、三六六 二、七二五	四六二 二八	四六 三二	一 一	— —

特殊的活動

1、第二回中央委員會決定のインフレ對策により、十二月二十一日に齋藤首相、內務省社會局長官、全産聯に對して、三割値上を要請す。大阪神戸其他所屬組合に於いても同樣運動す。

2、特に關西事務局會議(二月十七日)に於いては、インフレ對策の具體化を協議決定す。

3、インフレ闘爭の代表的爭議たる三菱川崎造船造機部內燃工場爭議(二月)及松竹レビュー爭議には本部として對策應援に當つた。兩爭議を通じて、組織の擴大强化に重點を置く全勞の爭議方針を具體化すべく努力し、何れも成功した。

(二)全國勞働の爭議情勢

本年度の全勞の取扱つた爭議件數は、紛爭議合せて三四三件(內罷業九九、紛議二四四)參加人員二五、二六三人(全從業員三九、六六三人の六四%)で、その形態は一件當り參加人員七三・六人平均、同平均日數一四日である。その原因別を昨年のそれと共に表示すれば次表の如くである。

原因別	七年度	八年度
賃銀値上要求	10	88
待遇改善要求	76	59
賃銀値下反對	39	21
臨休反對又ハ手當要求	14	14
工場閉サ反對	9	12
賃銀不拂反對	22	11
解雇退職手當制定要求	3	2
差別待遇退反對	1	—
馘首反對	86	91
組合壓迫	12	4
解雇退職手當要求	5	7
待遇低下反對	3	2
同情罷業によるもの	11	—
工場經營者變更に依る	—	8
仕事よこせ	—	4
契約不履行	—	2
諸手當要求	—	10
特殊なもの	—	8
合計	291	343

(二)組織部

(イ)我國勞働組合の組織率

昭和七年末に於ける我國勞働組合の組織狀態を社會局調査によつて見ると、勞働組合數九三二、組合員數三七七、六二